

地域発信型から地域活性化型総合学習へ

21世紀型学力を取り入れたキャリア教育を主軸とするカリキュラムの再構築

三条市立長沢小学校 校長 上村 満

1 はじめに

「自分が子どものころ、こんな授業があったら人生が変わっていたかもしれない。」6年総合「プロジェクトS（しただ）」の授業で講師をしていただいたKさん（起業家として地域おこしに貢献している）が、授業後にぼつりと言われた。キャリア教育を主軸とした総合的な学習の時間に取り組んで2年、地域を舞台にした学習は、いつのまにか地域の活性化に繋がっているのかも知れない。

長沢小学校は、明治5年開校の歴史と伝統をもち、旧下田村の中心校として2021年で150周年を迎える。「やさしく かしこく たくましく」を教育目標に掲げ、知・徳・体のバランスのとれた児童を育成すべく、学力の向上、人権教育、同和教育の充実、主体的な安全教育に取り組んでいる。保護者はほぼ長沢小学校の卒業生であり、育成会や地域の環境整備を担当する城山保存会等もあり、年間を通して地域が学校の教育活動を支えている。地域の学校に寄せる期待は大きく、地域をあげて子どもたちを育てようとする気運に溢れている。しかし、少子高齢化による人口減少も進んでおり、現在8学級、児童数111名である。

「下田は、帰ってきたくなる故郷。」「東京で就職したが、転職してもどってきた。」といった保護者の声もよく耳にする。それだけ下田は教育資源豊富な魅力ある地域である。この魅力ある地域を舞台に子どもたちと共に地域が活性化するような学びを作ることはいかなるだろうか。

平成30年6月に第3次教育振興基本計画が閣議決定され、教育政策に関する基本的な方針の一つを「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する」とした。また、次期学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラムマネジメント」の3本柱が示された。

これら時代の要請と下田の教育資源を背景として、これからの長沢小学校が目指す方向を「夢をはぐくむ学校」とし、地域の人的・物的を活用し、21世紀型学力を育む。そして、子どもたちの学びが地域と繋がり、地域が活性化する「夢のカリキュラム」を開発すべく実践を積み重ねていく。

2 21世紀型能力（学力）を育むカリキュラムへの再構築（資料1）

当校では、これまでも下田地域の魅力を発見し、活動した内容を地域の方に発信する地域発信型の生活科・総合的な学習の時間（以下、総合学習）を展開してきた。H29年度からは、総合学習をキャリア教育を主軸としたカリキュラムに編成し、学習活動をキャリア教育の視点「あい」「ひと・じぶん」「いきる」「みら

い」で整理した。これらをパンフレット（資料2）にまとめ、地域に発信した。（図1）

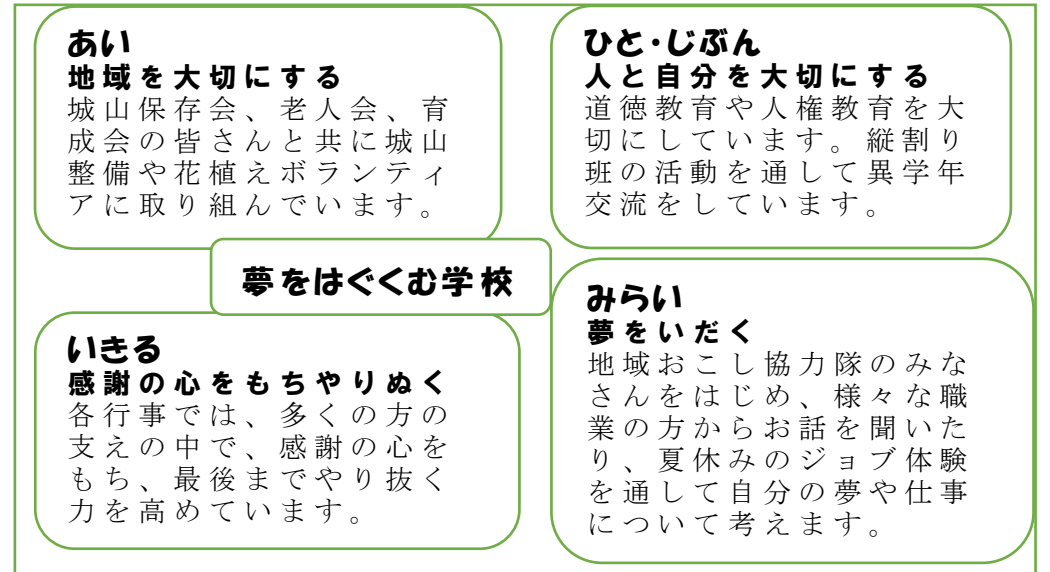


図1 パンフレットの概要

これらの学習活動が下田地域の活性化に繋がり、更に、子どもたちが自分の夢を描き、生き方を考えることができるような学習内容にしたいと考えた。そのためには、育てたい資質・能力を明確にする必要がある。そこで、次期学習指導要領の資質・能力のベースとなっている21世紀型能力（21世紀を生き抜く力として、これからの学校教育で育成すべき資質・能力）（図2）を基盤として考えた。



図2 2013 国立教育政策研究所

汎用的能力として挙げられている「基礎力」「思考力」「実践力」の3つの階層に当校のキャリア教育の視点「知る」「体験する」「描く」を合わせ、「知る」を知識・技能、「体験する」を思考力・判断力・表現力、「描く」を学びに向かう力とし、キャリア教育を主軸とした総合学習で育てたい資質・能力を明確にした。（図3）

汎用的能力として挙げられている「基礎力」「思考力」「実践力」の3つの階層に当校のキャリア教育の視点「知る」「体験する」「描く」を合わせ、「知る」を知識・技能、「体験する」を思考力・判断力・表現力、「描く」を学びに向かう力とし、キャリア教育を主軸とした総合学習で育てたい資質・能力を明確にした。（図3）

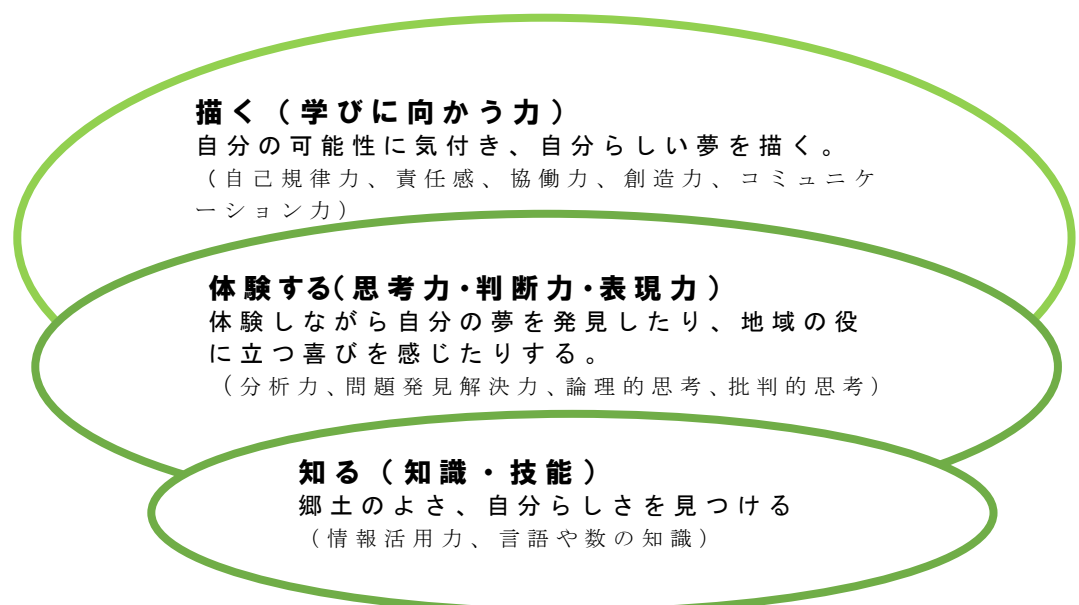


図3 長沢小のキャリア教育を主軸とした総合学習の学力観


また、思考力・表現力・判断力を育むためには、言語活動の充実が欠かせない。国語科の資質・能力を整理し、教科横断的カリキュラムに編成した。そして、子どもたちの夢を育むカリキュラムマネジメントとして、「夢のカリマネ」と名付けた。 表1 カリキュラム

キャリア教育の視点	育てたい資質・能力	夢のカリマネ (学びの場)	国語科 思考力・判断力・表現力
1年 あいひと・じぶん	五感を通して感じたことを、絵や文章、身体で表現する力	生活科×国語科×図工科×道徳 (学校、城山)	1・2年生 順序立てて考える力、感じたり想像したりする力 自分の思いや考えをもつ
2年 あいひと・じぶん	友達が感じたことについて共感する力、知りたいことを図鑑等を使って調べる力	生活科×国語科×特別活動×道徳 (校区のお店、交番、畑)	自分の思いや考えをもつ
描く (学びに向かう力) 仲間と共に下田地域を知りたい 体験する (思考力・判断力・表現力) 工夫を見つける 知る (知識・技能) 発見したことを新聞などにまとめる			
3年 あいみらい	課題設定力 課題解決力 メディアリテラシー	社会科×理科×国語科×特別活動 (ヒメサユリの小径、下田地域)	3・4年生 筋道を立てて考える力豊かに感じたり想像したりする力 自分の思いや考えをまとめる
4年 ひといきる	情報収集力 整理分析力	社会科×国語科×理科×防災教育 (五十嵐川、笠掘ダム)	自分の思いや考えをまとめる
描く (学びに向かう力) 下田の自然を支えてきた五十嵐川について知りたい 体験する (思考力・判断力・表現力) なぜ豊かな自然を生むか 知る (知識・技能) 地形と自然の関わり			
5年 みらいいきる	情報活用力 論理的思考 批判的思考	国語科×社会科×家庭科×人権教育、同和教育 (学校田、農業の経営者、新潟水俣病資料館)	5・6年生 筋道を立てて考える力豊かに感じたり想像したりする力
6年 みらいいきるひと・じぶん	創造力 協働力 自己規律力	社会科×理科×算数科×国語科×特別活動 (下田の英雄、起業家、学校歯科医)	自分の思いや考えを広げる

3 夢のカリマネの実際

(1) 地域のおじいちゃんおばあちゃんと仲良くなる夢のカリマネ

1年生活科 学校大好き・城山大好き (あい、ひと・じぶん)

 地域の方にとって春の花見会場でもある城山は、学校の豊かな教育資源の一つである。生活科、図工科で城山の四季の変化を身体いっばいに感じながら学習している。この城山を舞台にして地域のおじいちゃん、おばあちゃんと交流したい。学校で育てたサツマイモで焼き芋大会を開いたらどうだろう。地域の方との触れ合いを通して、人々のあたたかさや自然の魅力を感じさせたい。

生活科×国語科×図工科「かざるんるん」×道徳

- 【描く】自ら対象に関わろうとする力
- 【体験する】変化を感じる・感じたことを表現する
- 【知る】作文教材で自分ができるようになったことを書く

①おじいちゃん、おばあちゃん、ありがとう

様々な経験を通して、できることが増えていく喜びが自信につながっている。自然と関わることで遊びを

考え、新しい友達とのかかわり方を見つけ出している。



ボランティアの参加を通して支えられている実感をもつことができた。言語活動の広がりにより、感謝の気持ちを伝えたいという意欲が膨らんできている。

(2) 地域の人と下田自慢を作ろうと奮闘する夢のカリマネ

3年総合 ヒメサユリいっばいプロジェクト (あい、みらい)

H29年度の実践では、「下田人口を増やすために下田の魅力発信しよう」と、市外・県外の人に伝えるためのパンフレットを作成し、燕三条駅で配布しながらPR活動をした。今年度は、ここ長沢に地域の方と一緒に下田の魅力の場所を作ってみたい。



社会科「下田地域の自然」×理科「植物の生長」×国語科×特別活動「学級会」

- 【描く】進んで課題を解決しようとする
- 【体験する】分からないことを尋ねる。体験したことをまとめ、発表する
- 【知る】植物の生長、三条市の人口、産業など

①学校の裏山をヒメサユリでいっばいにしたい

下田の名所「ヒメサユリの小径」を訪ねた子どもたちは、たくさんの観光客に驚いた。「私たちの学校の裏山にもヒメサユリを増やしたい。」「毎年花が咲き、地域の方がふれ合う場所になって欲しい。」という願いをもち、早速、地域の方に相談した。

②地域の方のふれ合う場所にしたい (資料4)



地域のライオンズクラブの方が力を貸してくださった。球根を植えると、「木道を作りたい。」「看板を立てよう。」と子どもたちの夢は広がる。手伝ってもらいながら道を整備したり看板を設置したりしながら遊び場を作ることができた。



③発信！ヒメサユリ 出雲崎小学校との交流

ヒメサユリはもともと下田地域に自生していたが、山林の手入れがされなくなり、里山が荒れたことから絶滅に瀕していること、種から球根にするまでに5~6年かかることなど、下田にヒメサユリを広めたYさんの話を聞きながら、子どもたちは、このことをもっとたくさんの人に伝えたいという思いを膨らませた。そこで、下田と違う環境の海沿いの学校、出雲崎小学校に交流をお願いした。環境の違いを比較することでより自然への思考が深まった。

(3) 下田の環境を見直し農業の夢を膨らませる夢のカリマネ

5年総合 お米調査隊 (みらい、いきる)

毎年学校田で米作りを体験してきたが、今年度は、校区で農業をされているFさんに1年間先生になっていただき、米作りから販売まで、社会科の学習と合科させて、日本の農業の今を多面的に考えさせたい。



国語科×社会科「日本の農業」×家庭科×人権教育、同和教育「生きる」より、新潟水俣病について

- 【描く】下田の米作りへの関心
- 【体験する】これからの日本の農業を考えようとする
- 【知る】生産調整、TPP等日本の農業に関する用語の意味、グラフなどを読み取る

①日本の農業を考える

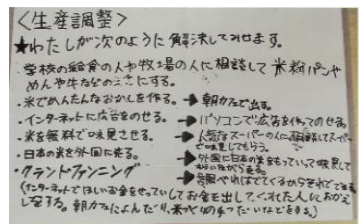


Fさんのお宅を訪ねて、自慢のお米を食べさせていただき、実際の農業経営を見学させていただいた。三条市で「朝カフェ」を企画するなど、アイデアいっぱいの

農業経営をされているFさんに、子どもたちは興味津々であった。子どもたちは社会科の学習の中で、日本の米作りの問題点として次の4点を挙げた。

「生産調整」「外国の安い米の輸入」「働く人材不足」「米の消費量の低下」

そして「もし、自分たちが下田で農業経営するならこのように解決する」をテーマにグループで考えをまとめ、Fさんに聞いていただいた。



②下田の環境を見直す

「少しくらい値段が高くても下田米は売れる。」自信を持って話すFさんに少し驚いた子どもたちだった。その自信はどこから来るのだろうか。小さいころから下田で育ったFさんにとって、下田の環境は何ものにも代えがたいものだ。「米作りに水は命だ。」と力説するFさんの言葉から、環境について更に詳しく知りたいと新潟水俣病資料館を訪れることにした。阿賀野川の汚染が招いた大きな問題に触れ、下田の自然の素晴らしさと共に自然を守るとことの大切さを実感した。

③思考ツール「マインドマップ」と「ピラミッドチャート」

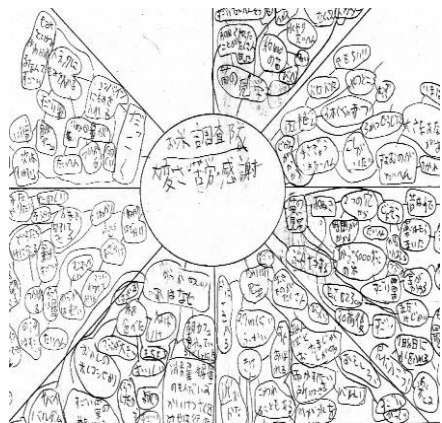


図4 マインドマップ
活動の振り返りに活用した。感じたことを短い言葉で表していく。自分の考えの広がり気付く。

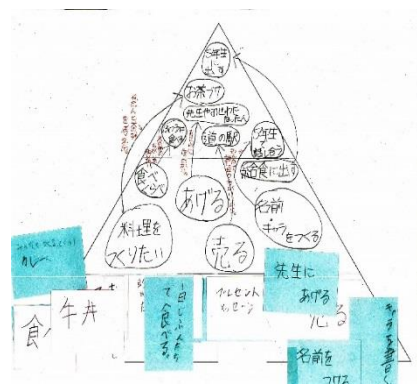


図5 ピラミッドチャート
最初の自分の考えを下の階層に書く。友達から付箋でヒントをもらう。上の階層へ考えを進めるためには、その理由を書き加える。

(4)下田の未来の活性化を考える夢のカリマネ

6年総合 **プロジェクトS(しただ)**
(みらい、いきる、ひと・じぶん)



昨年度の実践は、「ドリームプロジェクト2017」として、いろいろな仕事に携わる人から「なぜ今の仕事を選んだのか」「いつ頃、将来を決めたのか」「その職業に就く方法」などの話を聞き、今の自分たちがしておくべきことやこれからの生き方に必要な考え方を学ぶことができた。今年度は、ここ下田を盛り上げようとがんばっている多くの方と出会い、その人の生き様を通して、下田への愛を感じてほしい。

社会科「過去から学ぶ」×算数科「グラフの変化から因子を考える」×図工科×国語科×特別活動

- 【描く】下田への夢を描く
- 【体験する】思いを伝え、相手を説得する
- 【知る】下田地域活性化に関する知識

①下田を盛り上げたいという思いを強くする

6年間の学びを通して、下田の魅力を感じた子どもたちであったが、過去10年間の下田人口の推移を目

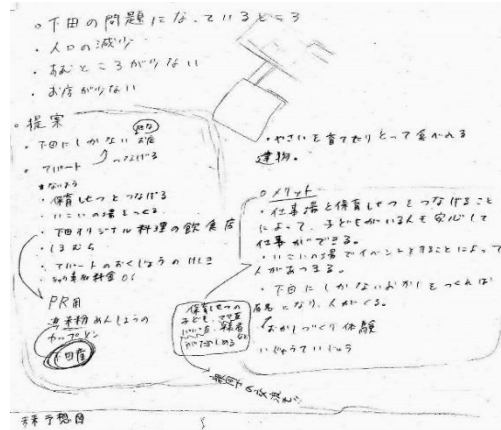


図6 児童の考える下田の未来

にし、急速な人口減少に驚き、「このままではいけない。」「なんとかしなければ。」といった危機感をもった。これからの下田はどんなところになったらいいのか、現状を捉え、未来の下田を描く学習が始まった。

②下田を盛り上げる「下田の英雄」の存在を知る

観光地としての下田ではなく、定住してもらえる住みよい下田をテーマに、子どもたちは3つの攻略策「交通網の整備」「商業施設の設営」「下田の特産を使ったスイーツの開発」を考えた。子どもたちの学習の内容を知った保護者から、下田に自生しているこくわの実を使ったカレーを販売しているYさんを紹介していただいた。それをきっかけに、Yさんの作っているカレーを販売している道の駅を訪ねると、下田を盛り上げようとしている有志「下田の英雄」がいることを知った。写真入りの特典付きカード(資料3)を作成し、何度も下田を訪れたいくなる仕掛けがしてある。このアイデアには、子どもたちも驚いた。そして、下田を盛り上げようとしている大人がたくさんいること、彼らからも学ぶことができることに、子どもたちの課題解決への意欲は高まった。

③ゴールは市長へのプレゼン

「下田を活性化するためには、自分たちの考えたことを三条市長 國定勇人氏に伝えたい。」ゴールを市長へのプレゼンに設定した。下田の英雄や青年会議所の方など様々な方のお力をお借りしながら、何とか市長に時間を取ってもらえるよう努力している。また、よりわかりやすいプレゼンにしたいと、美術部を結成して小道具を作り始めた。

子どもたちは市長を「なるほど」と唸らせたいと思っているが、担任は「考えたことが簡単に実現するほど社会は甘くはない。」という現実の厳しさも味わって欲しいと考えている。挫折や失敗からその原因を探し、みんなで知恵を出し合って立て直していく力も21世紀型学力で求めている大事な実践力である。



4 まとめ

(1) 子どもの学びが地域を動かす

① 下田盆踊りの復活

子どもたちの学習の様子を学校便り、学級便り、パンフレットなどで発信してきた。そんな中、ある保護者から「文化祭に地域の方と下田の盆踊りを踊ってみてはどうでしょう。」というお声をいただいた。地域の夏祭りも年々参加者が少なくなり、盆踊りを継承することが難しくなっているという。お年寄りも参加した盆踊りは地域活性化に繋がるのではないかと、子どもたちの思いを地域が受け止め、地域が動き出した瞬間だった。校区を越えて笛や太鼓の演奏者が集まり、文化祭当日は、地域の方との下田盆踊りが実現した。



② 夢や志を持った大人が夢や志を持つ子どもを育てる

下田の豊かな自然や地域の協力を惜しまない風土に魅了され、職員も「子どもたちとこんな学習がしてみたい。」と意欲的に教育資源の開発に取り組んでいる。自ら名刺を用意し、出張先で名刺交換をしながら地域の人材を発掘している。管理職も様々な会議や学校便りを通して「地域活性化型総合学習」の構想を地域に発信している。お陰で学校は、多くの方と繋がることのできた。保護者から人材の紹介があったり、地域おこし協力隊から授業の申し出を受けるようになった。地域の奉仕作業に参加する中で、老人会の方に生活科の昔遊びの講師のお願いをすることもできた。長沢小学校卒業生の学校歯科医さんからは、「是非、私に地域医療の話をして。」とお声がけいただいた。夢のカリマネは職員の創造力と実行力の積み重ねで作成され、地域と学校が繋がり、地域に元気をもたらしている。

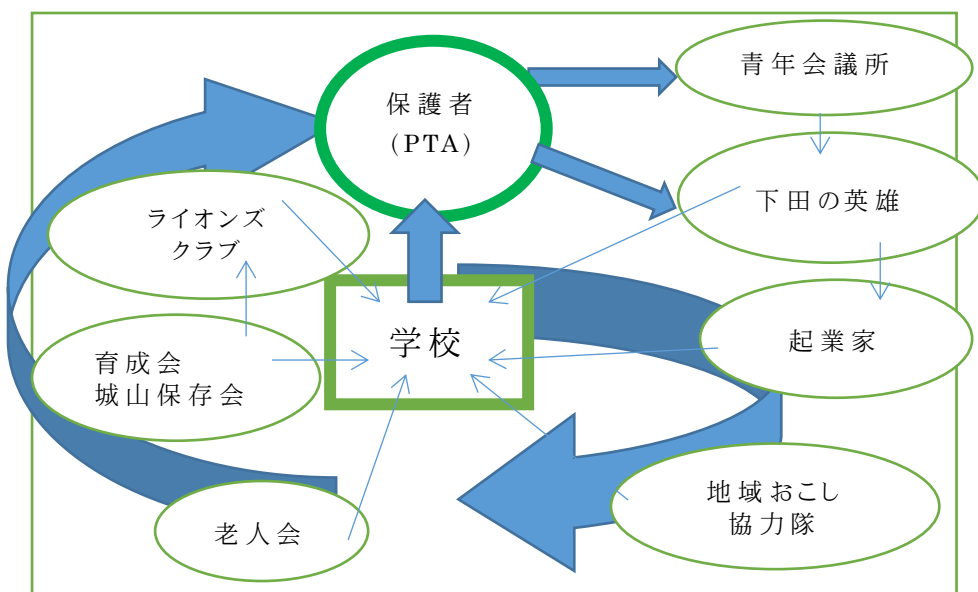


図7 地域発信型から地域活性化型へ

学校を中心に下田地域を活性化させようとするうねりが生まれている。

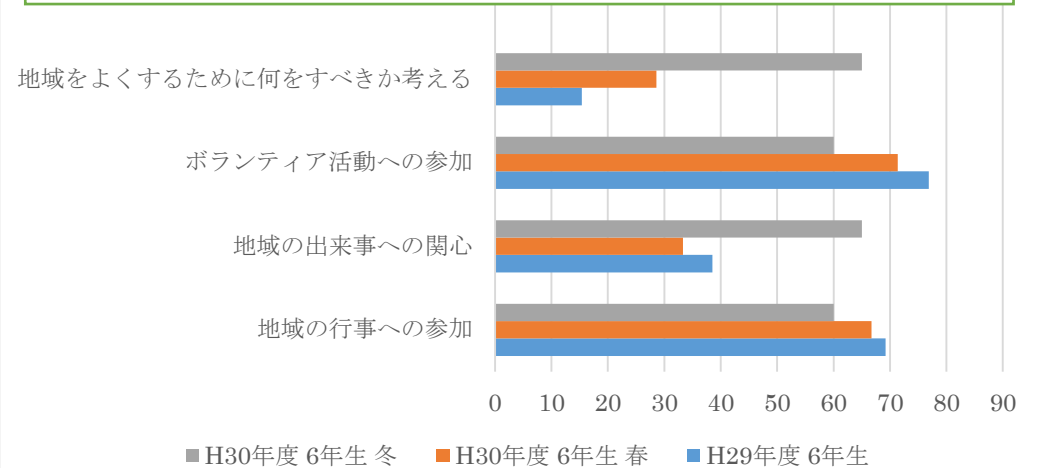
(2) 「貢献する」ことへの憧れ

子どもたちは総合学習を通して、地域貢献をしている多くの大人に出会うことができた。子どもたちのためにいつでも駆けつけてくれるおじいちゃん、おばあちゃん、下田にヒメサユリをと奮闘するYさん。下田

の米ブランドを立ち上げようがんばるFさん、下田のこくわの実を使ってカレー屋さんを営んでいるYさん、下田の野菜や果物を使ってスイーツの店を立ち上げたKさん、空き屋を活用して民宿経営を考えているIさん。自分たちのために汗を流してくださったたくさんの地域の方への感謝の気持ちと共に、地域活性化のために、奮闘する多くの大人の姿に、「自分も誰かの役に立つ仕事がしたい。」と「貢献する」ことへの憧れの気持ちを抱いた。

(3) 地域への関心の高まり

「地域への関心」に関する児童の意識の変化
30年度全国学力・学習状況調査「児童質問紙」より、地域に関する項目を抜粋。29年度の6年生と比較。30年度の冬に同じ項目でアンケートを取った。



今年4月の結果と比べると「地域をよくするために何をすべきか」「地域への関心」といった項目に、大きな意識の変化が見られた。

5 おわりに

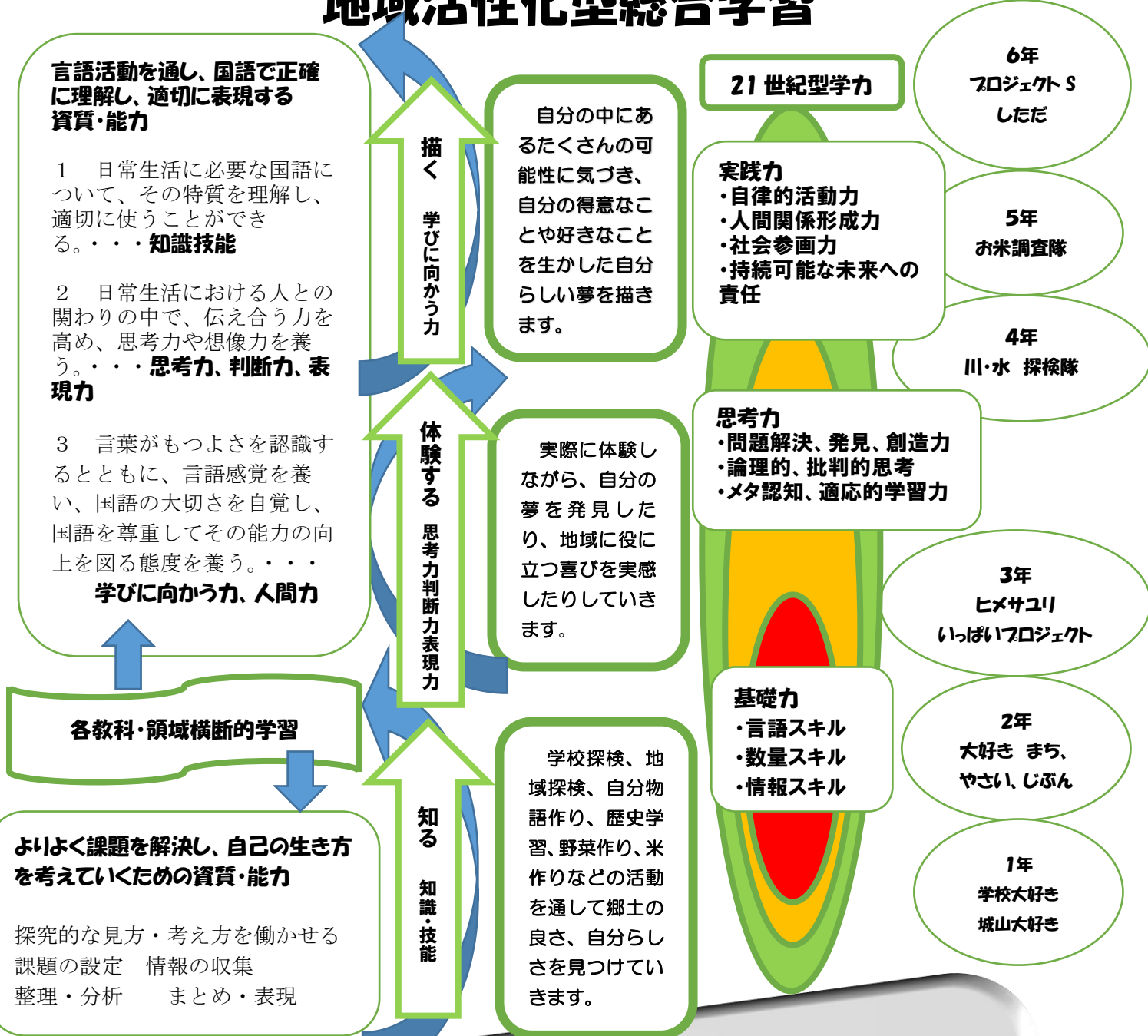
「ロボットは東大に入れるのか」人工知能プロジェクトを立ち上げ、「AI vs 教科書が読めない子どもたち」（東洋経済新報社）の著者である新井紀子氏は、「人間にしかできないこと」として、物事の背後にある意味を考えること、なぜという問いを持つこと、一見無関係に思えるようなものにまで視野を広げてみることを、積極的に他者とコミュニケーションをとることをあげている。そして、大切なことは、そういった人間にしかできないことを愚直に真摯に積み上げていくことだと述べている。このキャリア教育を主軸とした地域活性化型総合学習は、地域を活性化するという目的の内側に、新井氏の言う愚直で真摯な実践が積み重なっている。

子どもたちはこの学習で得た学びを「夢ナビカルテ」にまとめ、中学3年まで持ち上がる。子どもたちはキャリア教育を通して、9年間自分の夢を大事に育てていくことになる。進路選択の際に、自分の学びの履歴を見て、自分の夢や生き方を確認することだろう。資質・能力を明確にしたカリキュラムの必要性と、小中の連携の重要性を強く感じざるを得ない。

ここ下田地域にも来年度、学校運営協議会が立ち上がる。是非、子どもたちのポートフォリオを見ていただき、子どもたちの下田に対する夢や思いを感じ取っていただきたい。

大地に根を張り、自分だけのでっかい花（夢）を咲かせよう

地域活性化型総合学習



家庭との連携

お手伝い
夏休みジョブ体験

地域のコミュニティ

JC
PTA
育成会
地域おこし協力隊
下田の英雄
ライオンズクラブ
三条市青少年育成会



下田地域に夢や志を持つ大人たちが、夢や志を持つ子どもを育てます。

